

ローマ法王

ヨハネ・パウロ2世死去

在位26年、本県も訪問



3月30日、バチカンのサンピエトロ広場に面した建物の窓から信者を祝福するローマ法王ヨハネ・パウロ2世 (A P II 共同)

【ローマ2日共同】宇野

隆哉「カトリック教徒11億人の信仰の頂点に立つローマ法王ヨハネ・パウロ2世(本名カロル・ボイチワ)が2日午後9時37分(日本時間3日午前4時37分)、死去した。84歳だった。

キリスト教各派との和解や「異なる宗教との対話」を促進、平和の尊さを説き続けた。旧ソ連や東欧の民主化、平和外交に大きな足跡を残した。

1920年5月18日、ポーランド・クラクフ近郊で生

まれた。78年10月16日、264代法王に選出された。ローマ法王庁によると、在位期間は26年以上に及び歴代3位。次期法王は、枢機卿による選挙で選ばれる。

在位中に歴代最多の104回の外遊で130カ国以上を訪問、「空飛ぶ聖座」と呼ばれた。本県には81年2月に訪れた。

86年にローマのシナゴーク(ユダヤ教会堂)を法王として初めて訪問。2000年3月にはキリスト教会の分裂や異端審問などを罪として挙げ、神に許しを求めた。

パレスチナ紛争、イラク戦争で積極的なバチカン外交を展開、平和のメッセーヂを訴え続けた。

80歳を過ぎても精力的活動を続けたが、最近はいくキンソン病を患って歩行が不自由になり「退位説」も出ていた。